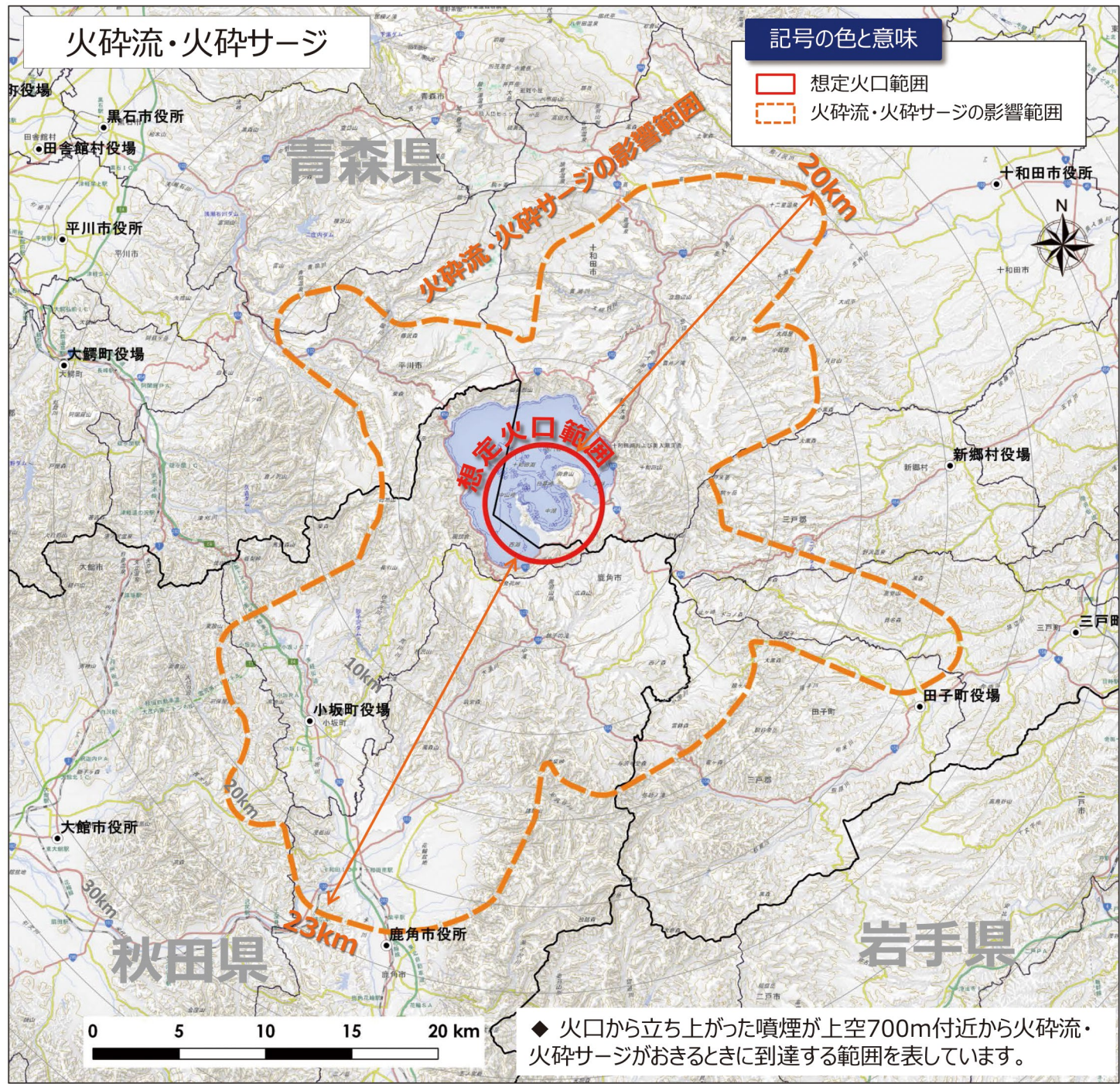


● 十和田火山災害想定影響範囲図

十和田火山は、過去に噴火を繰り返してきた活火山であり、その噴火活動は将来も続きます。気象庁では「常時観測火山」の一つとして、十和田火山を24時間体制で監視・観測を行っています。

この地図は「十和田火山災害想定影響範囲図（噴火の大きさ「中規模」）」を引用しました。



● 主な火山災害

噴火の種類

水蒸気噴火：マグマで熱せられた地下水が急激に膨張し、水蒸気となって爆発する噴火をいいます。

マグマ水蒸気噴火：地下水がマグマと直接接触して水蒸気爆発を起こし、マグマとともに噴出する噴火をいいます。

マグマ噴火：マグマそのものが地表に噴出する噴火をいいます。

大きな噴石

噴火により、火口近傍には 無数の大小の噴石が吹き飛ばされ、登山者や建物等に被害を及ぼします。直径約 50 cm以上の大きな岩石等は、風の影響を受けずに火口から弾道を描いて短時間で落下し、建物の屋根を打ち破るほどの破壊力を持っています。

小さな噴石・火山灰

噴火により噴出した小さな固形物のうち、小さな噴石は火口から 10 km以上遠方まで風に流されて降下する場合もあり、屋内への退避が必要になることもあります。火山灰は、時には数十 km から数百 km 以上風に運ばれて広域に降下・堆積し、農作物の被害、交通麻痺、家屋倒壊、航空機のエンジントラブル等広く社会生活に深刻な影響を及ぼします。

火砕流・火砕サージ

高温ガスや火山灰、岩塊などが一体となって急激に山体を流下する現象を火砕流といいます。流下速度は時速数十 km から百数十 km、温度は数百℃に達することが多く、通過域を焼失・埋没させます。火砕サージは火砕流よりもガス成分が多い希薄な流れですが、非常に高速で、直進して屋根を乗り越えることもあります。

融雪型火山泥流

積雪期の火山において、噴火に伴う火砕流等の熱によって斜面の雪が融かされて大量の水が発生し、周辺の土砂や岩石を巻き込みながら高速で流下する現象です。流下速度は時速 60 kmを超えることもあり、谷筋や沢沿いをはるか遠方まで一気に流下し、広範囲の建物、道路、農耕地が破壊され埋没する等、大規模な災害を引き起こしやすい火山現象です。

火山噴火に伴う堆積物による土石流や泥流

火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなります。火山灰が積もったところでは、数ミリ程度の雨でも発生することがあります。これらの土石流や泥流は高速で斜面を流れ下り、下流に大きな被害をもたらします。

溶岩流

マグマが火口から噴出して高温の液体のまま地表を流れ下るものです。通過域の建物、道路、農耕地、森林、集落を焼失、埋没させます。

岩屑なだれ

噴火や地震の強い揺れなどで山体の一部が一気に崩れ、大きな岩や土のかたまりが高速で流れ下る現象です。

● 噴火警戒レベル

噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を 5 段階に区分したものです。噴火が発生した際は気象庁が発表する噴火警戒レベルや噴火警報・予報を確認し、適切な行動をとることで噴火災害の軽減につながります。

種別	名称	対象範囲	レベル(キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	【5-3】火砕流・火砕サージが火口から概ね 30km の範囲の居住地域に被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫。積雪期には融雪型火山泥流が海岸部までの河川流域の居住地域に到達、あるいは切迫。 【5-2】火砕流・火砕サージが火口から概ね 20km (最大 23km) の範囲の居住地域に被害を及ぼす噴火が発生あるいは切迫。 【5-1】大きな噴石が火口から4 km 程度まで飛散するなど居住地域に被害を及ぼす噴火が発生あるいは切迫。
			4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者の避難及び住民の避難の準備等が必要。想定火口範囲内の居住地域での避難等が必要。	【4-2】火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が火口から概ね 4km の範囲を超えた居住地域に到達する噴火の可能性。 【4-1】大きな噴石が火口から4 km 程度まで飛散するなど居住地域に影響を及ぼす噴火の可能性。
警報	噴火警報火口周辺警報又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	危険な地域への立入規制等。住民は今後の火山活動の推移に注意。	【レベル2、3の発表について】 火山活動が高まっていく段階では使用せず、火山活動が沈静化し、レベル4、5から下げる段階で、火山活動の状況に応じて発表する場合がある。
		火口周辺	2 火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口周辺への立入規制等。住民は今後の火山活動の推移に注意。	
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動に高まりがみられる。今後の活動の推移によってはレベルを引き上げる可能性がある。	状況に応じて、想定火口範囲内の居住地域での高齢者等の要配慮者の避難等が必要。	浅部を震源とする火山性地震の増加、火山性微動の発生、浅部の膨張を示す地殻変動等。
				火山活動は静穏。	住民は通常の生活。	火山活動は静穏。

※火山活動に高まりがみられ、今後の活動の推移によってはレベルを引き上げる可能性がある、または判断に迷う場合には火山の状況に関する解説情報（臨時）を発表する。

※想定火口範囲内の居住地域は、他の居住地域より早期に避難等の対応が必要。

※火口とは、火山ハザードマップの想定する噴火場所のことをいう。

※融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。

● 火山情報の連絡先

噴火警報などの情報は迅速に住民に伝達する体制を整えています。情報が出る前に火山に関する異常に気づいたら町役場や気象台へ連絡をお願いします。

小坂町役場	0186-29-3901	鹿角広域行政組合消防本部	災害情報案内 0186-30-1720
秋田県総合防災課	018-860-4562	青森県防災危機管理課	017-734-9181
秋田地方気象台	テレホンサービス 018-824-0508 目撃情報 0570-015-024	仙台管区気象台	目撃情報 0570-015-024

● 避難時の心得

- ◆ **落ち着いた行動を**
小坂町役場から発表される避難指示に従い、落ち着いて行動しましょう。
- ◆ **正しい情報を入手しましょう**
テレビやラジオ、メールサービスやアプリ、行政機関の広報などから正しい情報を入手しましょう。誤った情報に惑わされないように注意しましょう。
- ◆ **避難場所の把握**
火山泥流に対応した避難場所や身近な高台へ避難するようにしましょう。日頃から避難場所を確認しておくこともいざというときに大事になります。
- ◆ **身体を守る装備を**
ヘルメット、マスク、ゴーグルなど頭や顔を守る道具を装着することや、長袖、長ズボン、軍手など露出を控えた服装をすることでけがのリスクを減らすことができます。避難の時にはしっかり着用しましょう。

